

## 国際会議の誘致について

平成13年4月12日  
北陸電力株式会社

おかげさまをもちまして、当社は、本年5月1日に創立50周年を迎えます。  
これまでの50年にわたる地域の皆さまへの感謝の意を表し、今後ますます重要性を増す「エネルギー」「環日本海交流」「環境」に対するメッセージを発信するため、次の2つの国際会議の誘致を計画しておりますのでご案内いたします。

1. 「北東アジア経済フォーラム 電力サミット2001 イン 北陸」……別紙1参照
  - ・日 時：平成13年11月5日（月）～6日（火）
  - ・場 所：富山国際会議場
  - ・主 催：北東アジア経済フォーラム
  - ・共 催：東西センター(米国)、財団法人電力中央研究所、北陸電力株式会社
  - ・テ ー マ：新世紀における北東アジアの経済発展とエネルギー、電力の役割（仮題）
  - ・参加者：北東アジア各国の電力会社首脳及び電力・エネルギー専門家他
  - ・備 考：一般公開
2. 「国際雷シンポジウム・イン 北陸」……別紙2参照
  - ・日 時：平成13年9月17日（月）～18日（火）
  - ・場 所：北陸電力本店ビル2階大ホール
  - ・主 催：電気学会高電圧技術委員会、財団法人電力中央研究所、北陸電力株式会社
  - ・テ ー マ：冬季雷の性状と耐雷技術及び雷予知への研究課題
  - ・参加者：国内外の雷研究者他
  - ・併 催：期間中、雷資料の展示及び雷講演会を開催（一般公開）

以 上

**「北東アジア経済フォーラム 電力サミット 2001 イン北陸」の開催について****1. 趣旨・経緯**

北陸地域は、政府の「新しい全国総合開発計画」において環日本海交流の先導的地域と位置づけられるとともに、これまで北陸経済連合会など地元産官学が連携をとりながら、環日本海対岸諸国を中心とした国際交流促進に向けた取り組みを展開して参りました。

21 世紀における北東アジア地域は、経済的に大きく発展することが予想される一方、エネルギー・電力需要の急激な増大にともなう供給力の不足や環境問題の深刻化など、数多くの課題克服が必要になると指摘されております。

こうしたなか、図們江地域開発計画や北東アジア開発銀行設立計画の提唱など、北東アジア地域の経済発展への貢献を目的に活動を展開している N G O の「北東アジア経済フォーラム」が 1999 年に開催した「天津会議」において、北東アジア地域の電力首脳による会議の実施が提言されました。

北東アジア地域の電力首脳が集まり、同地域の将来とエネルギー・電力の役割に関して知見を深め、お互いに抱える諸課題について意見を交換することは、環日本海地域の経済発展にとって大変意義深いものがあります。

当社といたしましては、このような意義に鑑み、北東アジア経済フォーラムの電力サミットを当社創立 50 周年に合わせて誘致いたしましたところ、北陸で開催することに決定いたしました。

**2. 開催案**

- (1)日時場所：平成 13 年 11 月 5 日(月)～6 日(火) 富山国際会議場
- (2)主 催：北東アジア経済フォーラム
- (3)共 催：東西センター(米国)、財団法人電力中央研究所、北陸電力株式会社
- (4)後 援：中国国家電力公司、韓国電力公社、日本政府関係機関、電気事業連合会、  
(予定) 富山県、石川県、福井県、富山市、北陸経済連合会 他
- (5)概 要：北東アジア各国の電力会社首脳及び電力・エネルギー専門家を招いて開催

曜日	内 容
5 日(月)	<b>基調講演</b> 「新たな波：21 世紀における世界のエネルギー動向」 ・ダニエル・ヤーギン ケンブリッジ・エネルギー研究所会長 「21 世紀における北東アジア情勢の展望と我が国の取り組み」 ・谷野 作太郎 前駐中国大使 <b>セッション 1</b> 「21 世紀における北東アジアの新たなエネルギー需給動向」 ・フェレイドウン・フェシャラキ 東西センター上級研究員 ・中国、日本、韓国など北東アジア各国のエネルギー専門家 (日本：十市 勉 日本エネルギー経済研究所 常務理事)
6 日(火)	<b>セッション 2</b> 「グローバル化時代における北東アジア電力産業の新たな挑戦」 ・中国、日本、韓国など北東アジア各国の電力専門家 (日本：内山 洋司 筑波大学教授) <b>総括セッション</b>

以 上

## 【参 考】

### 北 東 ア ジ ア 経 済 フ ォ ー ラ ム

#### 1. 概 要

- ・東西センター趙利済氏と元外相大来佐武郎氏の呼びかけにより1991年に設立されたNGO
- ・北東アジアの経済開発と経済協力を促進し、地域の信頼醸成に貢献することが目的
- ・フォーラム会議、専門家会議、人材育成と研修、情報提供等を実施

#### 2. 組 織

- ・議 長： 趙 利 済 東西センター シニア・アドバイザー
- ・理 事： 金森 久雄 日本経済研究センター理事・顧問 他 米国、中国、韓国代表
- ・事務局： 東西センター（ハワイ州ホノルル市）内に設置

#### 3. フォーラム開催実績

- ・長春(1991)、ピョンヤン(1992)、ウラジオストク(1992)、ヨンピョン(竜平)(韓国)(1993)、新潟(1995)、ホノルル(1996)、ウランバートル(1997)、米子(1998)、天津(1999)、長春(2001.4 予定)
- ・天津会議(1999)概要  
「地域経済協力」、「流通ネットワーク」、「図們江(ともんこう)地域開発」、「エネルギー」、「環境」、「ファイナンス」の6セッションと「電力」、「テレコミュニケーション」の2分科会を実施

#### 4. 趙 利 済 (Lee - Jay Cho) 氏 略 歴

- ・1936年京都生まれ。シカゴ大学博士号(社会学)、慶応大学博士号(経済学)、東京大学博士号(人口統計学)取得
- ・韓国政府の人口問題・経済開発上級顧問の後、東西センター人口問題研究所長、同センター副総裁(開発構想担当)を歴任し、現在、同センターシニア・アドバイザー
- ・韓国政府より「ムクゲ賞」(国民顕彰の一つ)を受賞

### 東 西 ( イ ー ス ト ・ ウ ェ ス ト ) セ ン タ ー

#### 1. 概 要

- ・1960年にアイゼンハワー政権と米国議会の超党派の努力により、ハワイに設立された国立の教育・調査機関。
- ・共同研究、教育、調査を通じて、アジア・太平洋地域の人々との良好な関係構築と相互理解の促進を目的とする。
- ・広い意味での米国の対アジア太平洋外交政策の一部を担うとともに、当該地域からの人材を迎えて、相互間の協力関係強化に貢献。

#### 2. 組 織

- ・総裁：チャールズ・モリソン ・シニア・アドバイザー：趙 利 済 他
- ・教授・研究員・職員 等 (約 2,250名)
- ・文化・コミュニケーション研究所、環境政策研究所、人口問題研究所、資源体系研究所等から構成

### ダニエル・ヤーギン 氏

- ・1949年米国生まれ。エール大学卒業後、ケンブリッジ大学国際関係博士号取得。
- ・ハーバード大学ビジネススクール教授、同大学ケネディ政治学大学院教授などを経て、現在、エネルギー関係の国際コンサルティング研究所であるケンブリッジ・エネルギー研究所会長。
- ・著書の『石油の世紀』は1992年にピューリッツァー賞を受賞。また、ベストセラーとなった『エネルギーの未来とロシア2010年』および『市場対国家』の共著者であり、国際政治・経済およびエネルギー研究分野の世界的権威。

### フェレイドウン・フェシャラキ 氏

- ・イラン生まれ。英国サリー大学経済学博士号取得。
- ・1970年代後半にイラン首相のエネルギーアドバイザーを勤めた後、1979年より米国東西センター。現在、同センター上級研究員。
- ・石油・ガス市場分析及び石油下流部門研究の第一人者として、米国政府をはじめ、世界の石油、電力、海運会社のコンサルタントとして活躍。
- ・1993年国際エネルギー経済学会(IAEE)会長。

平成 13 年 4 月 12 日

北陸電力株式会社

## 「国際雷シンポジウム・イン北陸」の開催について

### 1. 趣旨・経緯

北陸を始め、日本海側の地域では、冬にも雷があり、夏雷では対策済みと思われておりました電力設備を始め、お客さまのいろいろな設備にも被害を受けており、この冬雷の性質を解明して対策をすることが課題となっておりました。

このため、当社では以前からそれらに対して研究を実施してきましたが、平成 4 年から官学のご参加を賜り、雷研究委員会を設置して、研究に取り組んでまいりました。

この間、送配電線やお客さま設備への雷撃現象の解明、落雷位置標定精度の向上や新たな気象レーダ観測システムの構築など、いくつかの成果を見ることもでき、これらの研究成果を地域のお客さまに還元するため、この 2 月には「雷センタ - 」を設置し、雷コンサルティングをはじめたところでございます。

本年は当社の創立 50 周年を迎え、雷研究への取り組みも 10 年目の節目になりますので、これまでの研究成果をとりまとめ、国内外の研究者の皆さまから評価を受け、次の研究ステップに進めるため、本シンポジウムを開催させていただくことになりました。

なお、お客さまを対象に、雷資料の展示および雷に関する講演会の併催を予定しております。

### 2. 開催案

(1)日時場所：平成 13 年 9 月 17 日(月)～18 日(火) 北陸電力本店ビル(富山市)

(2)主 催：電気学会高電圧技術委員会、財団法人電力中央研究所、北陸電力株式会社

(3)共 賛：電気学会北陸支部、日本大気電気学会

(4)概 要：冬季雷の特性は、近年学術的にも国際的に広く知られ、研究内容は世界からも着目されている。これまでの研究成果を踏まえ、耐雷技術・落雷予測技術の進歩と電気事業運営に役立つ情報交換を促進するため、国内外から著名な雷研究者を招いて開催する。

なお、当社からも 3 名の研究者が発表する予定である。

特別講演 2 件 (世界の雷性状、北陸の雷研究)

セッション 4 件 (雷の性状、雷雲の観測と短時間予測、雷害対策等)

パネルディスカッション (雷観測と耐雷設計)

ポスターセッション 国内の雷研究者による研究紹介

(5)併 催：雷資料の展示および雷講演会

雷資料展示(人と雷、雷害対策、雷観測)

・日時場所：平成 13 年 9 月 17 日(月)～19 日(水) 北陸電力本店ビル(富山市)

雷講演会

・日時場所：平成 13 年 9 月 19 日(水) 北陸電力本店ビル(富山市)

・講 師：堀井 憲爾(ほりい けんじ)[名古屋大学名誉教授]

・演 題：「雷よもやま話」(仮題)

以 上